

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第31回

セイヨウタンポポ (キク科)



早春咲く花の中で最も親しみ深い植物の一つと言えるでしょう。開花から1ヶ月もすると綿状の種子を付け、風で飛んで行きます。ヨーロッパやアメリカでは、春先に葉を採取してサラダとして食用にします。

近年在来種であるタンポポはほとんど見かけられなくなり、これに代わってセイヨウタンポポが多くなっています。

両者の見分け方は、花の下の苞片(ほうへん)が、セイヨウタンポポでは下にそりかえっています。一方、タンポポの苞片は垂れ下がることはありません。

両者とも薬効は同じです。根茎(蒲公英;ほうこうえい)を煎じて服用すると、健胃、催乳、浄血薬となります。また、喘息や心臓病にも効果があります。タンポポコーヒーも有名です。

本画はウィリアム・ウッドビレによる1822年の作品です。